

## ニュースを他国と比べると

テレビをつけると、すぐに耳にする「コロナ」という言葉、ニュースでは「何県過去最多の感染者数」「何曜日の感染者数では過去何番目」「何日間連続で増加」と危機感を高め、注意を促す報道がされています。ワイドショーでは数時間も「コロナ」1本で詳細を報じ、芸能人が視聴者代表のような形で感想を述べていたり、ニュースの解説番組では「変異ウイルスの脅威」を複数の専門家が議論したりして、聞いているうちに一体何が適切な対応なのか分からなくなることさえあります。

そして、日本の報道機関がコロナの次に取り上げた人権に関するニュースは、「昨年、無国籍児が前年の1.3倍の216人に増えた」「女子プロレスラーの自死に関わる誹謗中傷の投稿をした男性二人目を逮捕」「外国人労働者の失業問題」などでした。

一方、テレビで他国の報道番組などをみると、コロナについては他国も日本と同じような状況です。「ドイツはワクチン接種が他国より遅れている」「ロシアはワクチン接種への国民の理解が進まない」「ブラジルは1日の感染者数がアメリカより多くなった」「インドは累計感染者数が世界で最も多くなりそうだ」などと報じています。コロナへの憂慮はどの国も以前と全く変わりません。人命、人権に関わることでですから当然です。

しかしながら、他国の報道機関がコロナの次に取り上げた人権に関するニュースは、「中国のウイグル人自治区での人権問題」「ミャンマー軍事クーデター後の圧政及びカレン族等少数民族への攻撃」「香港国家安全維持法の実施に懸念」「アジア系の人々へのヘイトクライム問題」などでした。自国のことではなく、他国の人権問題を採り上げるその姿勢は、日本とは大変異なるものと言えます。

外国の、特に先進国の人々は、他国での出来事に強い興味を持つのが当然であり、なぜならその出来事が自分たちの生活や経済に強い影響を及ぼすことがあることを知っているからだそうです。他国の人権問題についても関心を持つのは、彼らにとっては当たり前のことなのです。まさに「他人事」ではなく、「自分事」なのです。

もちろん、日本でも他国の人権問題を報道することもあります。ニュースでは後半に短い時間です。「ウイグル人」の問題は全国放送でも1分ほどでした。新聞でこれらの記事が連載されることも少なく、他の記事と同程度で単発です。その問題の起きた原因、背景、他国の対応姿勢、日本との関係は分からず、結局インターネットに頼ることになります。

日本の報道は自分たちの興味・関心に影響されがちで、特に他国の人権問題となると「他人事」と思ってしまう人が多いのかもしれない。

世界には、生きていくことさえ難しい状況に置かれた人がたくさんいます。私たちは、もっと世界の出来事に目を向け、離れた他国の人々の人権問題にもっと関心を持ち、誰もが幸せな人生を送れるよう願う時間も必要なのではないかと思います。